

1 全国学力・学習状況調査

小・中共通

項目	課題	解決の方向性
国語	・漢字の読み書き、文章の読み取りでは、全国の平均より約10%の差がある。	・今まで以上に漢字ドリルを繰り返し何回も使用し、基礎基本の徹底を図る。また教科書を活用して音読を何度も行い、文章全体の内容をとらえる等、理解を図る。
	・無回答児童が多い。 ・文章の要旨を書くことについては、平均より約5%の差がある。	・文章を見ただけで考えず取り組まない傾向があるので、日頃より問題文に慣れさせ、考える糸口の指導に努める。 ・新しい単元に入る際、どんな内容なのかを、短くまとめて書かせる指導を実施する。
算数	・小数の計算では正答率が10%平均と差があり、特に図形問題では、かなり差がある。 ・計算問題の無回答児童の割合がやや多い。	・計算ドリルの活用において、個々の目標を明確にして、基礎基本における全体の底上げに努める。 ・日頃のテストにおいても無回答で提出しないよう、十分な(考える)時間を確保する。
	・説明問題の正答率が低く、無回答が多い。 ・四捨五入や切り上げ等の仕組みの正答率が平均よりかなり差がある。	・現在3～6年で実施している少人数指導体制をより充実し、個々の能力に即した指導を展開する。 ・現在使用しているプリントやワークシート等を再度見直して、学級や学年の実態に合った活用を図る。
理科	・理科の全領域において正答率が平均より低い。 ・実験器具の名称や操作方法を忘れている。	・系統性のある単元では今後も既習の復習を意図的に取り入れる。 ・今まで以上、できるだけ少人数で実験を行い、器具に触れる機会を設ける。
質問紙調査	・自尊感情が低く、将来の夢をもっていない児童の割合が高い。 ・家庭学習の時間が少なく、家で授業の予習や復習をあまりしない。	・子ども同士で認め合える活動を増やし、自尊感情を高めていく。 ・楽しく分かる授業の展開を実践する。同時に家庭学習の大切さ、楽しさを味わわせる課題を出すように努める。

2 埼玉県学力・学習状況調査

小学校

項目		課題	解決の方向性
国語	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと・書くこと・読むことにおいては、市や県平均と比較して約5%の差がある。 ・言語についての知識・理解が5%の(学級によっては約7%)差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析結果を生かし、国語の各領域において基礎基本の徹底を図る。 ・漢字ドリルの他にも視写ノートを用いる等、学習の幅を広げる。また読書の時間を確保し、語い力を増やす。
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・市や県の平均と比較すると、書くことは上回ったが、話すこと・聞くこと、読むこと、言語で少し下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の基礎的なところを押さえているので、今以上に基礎基本の定着、発展・応用学習の強化を図る。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと・書くことに対して、10%以上の差がある。 ・特に書くことにおいて、正答率の差の開きが大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味や関心をひく授業展開を目指し、各領域の基礎基本を身につけさせる。 ・授業や家庭で作文や感想文を書く場を多く設ける。
算数	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題や量と測定では、市や県平均と比べて8～10%の差ができています。 ・数学的な考え方では、正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに計算の復習時間を取るなど、基礎基本の定着を徹底的に図る。 ・効果的な少人数指導を取り入れ、個々の習熟度を把握した指導に努める。
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の全領域で県平均を下回っている。中でも図形の領域は差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図ると共に、特に図形においては、ICTを活用して問題を提示し、興味関心を持たせる工夫をして、学力向上を目指す。
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習全般的に平均より約10%低い。 ・特に数学的な考え方では、かなりの差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数の計算、単位量あたりの大きさなどで、基礎基本の徹底的な定着を図る。 ・効果的な少人数指導体制で授業を行い、既習事項を活用しながら問題の自力解決をする。
質問紙調査		<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も県や市の平均より家庭学習の時間が少ない。 ・ゲームやスマホの時間が長く、ルールが決められていない。 ・進んであいさつができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態を伝え家庭とも連携し、学年×10分間の家庭学習を推進する。 ・家庭生活の見直しが図れるよう、家庭へ啓発する。 ・いつでも、どこでも、何度でもを意識させ、教師・家庭・地域・小中連携などの具体策を講じ、あいさつをさせる。

3 具体的な改善に向けた学校としての取組

<国 語>

- ・音読カードや読書カードを活用し、読む力をつける。
- ・各教室に読書コーナーの設置をし、毎週月曜の朝の時間と授業中に月1回以上の読書タイムを設ける。
- ・日記やふり返りカード、視写など、文章を書く機会を多く設ける。

<算 数>

- ・少人数やT. T(チーム・ティーチング)の効果的な指導を単元に応じて実践する。
- ・習熟のためのドリル学習を継続して実施する。
- ・計算調査を実施し、つまづきを把握し、習得できるようにする。

<その他>

- ・身の回りの整理整頓をさせ、意識向上につなげる。
- ・学習規律を徹底し、学校生活にリズムとけじめをつける。
- ・学校の学習環境の整備をし、学習に関する掲示の充実を図る。